

<既存の二酸化炭素消火設備に関する遡及内容について>

<契機> 令和2年12月から令和3年4月にかけて二酸化炭素消火設備に係る死亡事故が相次いで3件発生。合わせて死者7名、負傷者13名を出す惨事となった。



二酸化炭素消火設備には、既存設備を含め、「閉止弁」及び「防護区画等の出入口に危険性に関する標識」の設置並びに「防護区画内の立入り時の閉止弁の閉止等」の維持管理が義務付けられたほか、新設の二酸化炭素消火設備には「起動用ガス容器」、「緊急停止装置」等の設置が義務付けられるとともに、全域の二酸化炭素消火設備が設置されている防火対象物には消防設備士等による点検が義務付けられた。

◆ 消防法施行令等の改正

公布：令和4年9月14日
施行：令和5年4月1日

R4.9.14

公布日

R5.4.1

施行日

R6.4.1

閉止弁経過措置期限

閉止弁の設置

(集合管又は操作管に消防庁長官が定める基準に適合する閉止弁を設けること)

閉止弁に求められる基準

周知期間

- ▶ 操作の方向、開閉位置、常時開放、点検時閉止する旨、製造者名等が表示されている。
- ▶ 直接操作又は遠隔操作で確実に開閉する。

経過措置

- ▶ 操作の方向、開閉位置、常時開放、点検時閉止する旨、製造者名等が表示されている。
- ▶ 直接操作又は遠隔操作で確実に開閉する。

設置義務化

- ▶ 操作の方向、開閉位置、常時開放、点検時閉止する旨、製造者名等が表示されている。
- ▶ 直接操作又は遠隔操作で確実に開閉する。

+

- ▶ 構造・機能の基準
- ▶ 材質の基準
- ▶ 耐圧試験の基準
- ▶ 気密試験の基準
- ▶ 等価管長の基準

+

- ▶ 構造・機能の基準
- ▶ 材質の基準
- ▶ 耐圧試験の基準
- ▶ 気密試験の基準
- ▶ 等価管長の基準

+

- ▶ 開放及び閉止の旨の信号を制御盤に発信するスイッチ等が設けられている。
- ▶ 閉止の状態では閉止の旨の信号が発せられる。
- ▶ 開放の状態では開放の旨の信号が発せられる。

閉止弁からの信号を受けるために制御盤ごとの取替を要することがある。

①

既存設備

②

- ・有資格者点検
- ・標識の設置
- ・維持管理基準

周知期間

設置義務化

③

その他（起動用ガス容器の設置等）

既存設備に対する義務化なし。

新設設備

①、②、③の全て

周知期間

設置義務化



KYOTO CITY FIRE DEPARTMENT

KYOTO IS A SAFE CITY MADE BY THE BOND BETWEEN INDIVIDUALS AND BETWEEN PEOPLE IN THE COMMUNITY.